

# 兵庫県下のミカドアゲハについて<sup>1)</sup>

山 本 広 一

ミカドアゲハ (*Graphium doson* FELDER et FELDER 1864) は南インドからスダダ列島までの東洋熱帯に広く分布し、これがわが国に発見されたのは1885年であった<sup>2)</sup>。そして1887年 LEECH 氏によって *Papilio mikado* の名が与えられたのである。mikado とは“御門”の意。しかし、本邦産に相応しいこの名はすでに他の蝶に先占されておいたため<sup>3)</sup> 使用することが出来なくなり、現在は *Graphium doson albidum* (WILEMAN, 1906) の学名が当てられている。

この蝶はかつては日本産アゲハ中最も珍稀のものとして取扱われ、Staudinger 商会あたりでは素晴らしい高値が踏まれていたという。しかし、今では九州地方(佐賀県を除く)に少なくないことが判明し、ことに鹿児島県下から愛知県知多郡美浜町に至る太平洋岸に多くの産地が知られている。



発生は年1回乃至2~3回、橋本清美氏(1941)は高知市産を飼育して春型から生まれた幼虫がすべてその年内に羽化(夏型)するのでなく、かなりの個体そのまま蛹で越冬し、翌春羽化(春型)してくることを明らかにした。つまり1化のものゝ2化のものゝがあるわけである。また、これより前、王寺幸寛氏(1932)は宮崎県延岡で9月に発生するもの(第3化)があると記録し、鹿児島県ではときに第4化と推定される個体が10~11月

に獲られるという。

春型は夏型に比べて翅の黄白色帯が巾広く、かつ各型ともに黄斑型と赤斑型との別がある。そして、九州地方では黄斑型が、紀伊半島では赤斑型が採集され、四国地方にはこれら2つの型が混存する。

## 1. 淡路におけるミカドアゲハ

1966年筆者は洲本市柳学園高校の山西元氏から同校の登日邦明君が島内で採集したミカドアゲハを所蔵しているとの教示を受け、同君をお願いしてその標本を譲って頂くこととした。同君が津名郡大町小学校に通っておった頃(当時2年生)現在の津名郡津名町佐野で獲たものである。したがって、1958年の採集であったことは間違いないが、月日については詳らかでない。同君は7月頃のように記憶しているが<sup>4)</sup>、筆者にはこの標本が比較的傷みの少ない春型である点から遅くとも6月半ばまでのことと推測する。標本は後翅の裏面に紅色斑を装った(紅色はだいぶ色褪せている)春型の赤斑型(forma sugao HASHIMOTO et SUGITANI, 1940) のものである。



津名郡津名町佐野産；  
登日邦明氏採集・筆者所蔵

なお、登日君が語るところによると、蝶は路上の水たまりに来ていたらしく、他にももう1頭採集したという。しかし、その後の保管が悪かったため、その1頭は標本虫に侵されて今は無く、筆者に贈られた1頭もかな

1) 兵庫県蝶類誌(4)

2) 1885年5月20日 LEECH 氏によって鹿児島から1頭の♀が獲られた。

3) *Papilio mikado* の名は1875年 PAGENSTECHE 氏によってわが国産のキアゲハのあるものに与えられていた。

4) 登日君は1967年の淡路産蝶類仮目録に本種の採集月日を“VII-1958”と記しているが、“VII”については確信がないと語っている(同君よりの私信, 1968)。

りに色褪せた感がある。

その後(1964年)さらに2頭が奥野修久君によって津名郡志築明神から獲られた由、しかし、その標本に接していないので詳細は判らない。ただ後日の参考までに記しておく。

## 2. ミカドアゲハの習性瞥見

ミカドアゲハは現在淡路に産しない。したがってこの地における資料はないが、さいわい岡村八郎氏から頂いた室戸と伊勢での観察手記があるのでその大要を抜記することとした。

### 1. 観察場所と観察日時

- (1) 高知県室戸岬, 15-V, 1966; 29-IV, 1967; 14-V 1967
- (2) 三重県伊勢外宮付近, 23-V, 1965; 18-V, 1966; 17-V, 1967

### 2. 出現期

発生はアオスジアゲハよりやや遅く、室戸では5月5日頃より現われる。最盛期は5月10日前後、それはイボタの開花期とほぼ一致する。しかし、伊勢では5月12日頃より現われて5月末まで見うけられ、最盛期は5月17日前後、だいたいトベラの花が開く頃である。

### 3. 発生場所

室戸では食樹が海岸地帯に少なく、山腹の原生林が発生源となっている。伊勢では神域に食樹が多く、ここで発生する。しかし、産卵は主として数株の古木に限られているように思われる。

### 4. 産卵

午後2時頃が最も盛んであり、食樹の先端や下枝などに産卵しているのを見かける。しかし、いつも日当りの良い場所を選ぶとは限らなく、蔭枝やひこばえなどに産

み付けた場合も稀でない。

### 5. 日週活動

10時頃より現われ、11~12時頃に最も活発となる。そして午後4時頃にはその数が減少し、ときには空高くもつれ飛ぶ♀の姿を見かけることがある。

### 6. 飛翔その他

飛翔高度が高く、地上10~20mの稍近くを旋回するさまはオオムラサキやゴマダラチョウを思わせる。やはり蝶道があるらしく、室戸では山腹よりバス路を越えて海岸へと飛ぶ蝶をいくつも見た。海岸では高さ1~2mのイボタや地上のクローバーによく見かけ、伊勢ではトベラやクローバーに訪れるものが少なくない。好天の日を好み、つぎつぎと白い花へとやって来る。活動がアオスジアゲハほど敏捷ではないが、一度採集しそこねると急に活発となり、再びこれを捕えることは難しい。

なお、従来両地での♀の採集比はおよそ1:2、他のアゲハに見るような大きな差は認めない。

以上この稿を終えるにあたり、得難い標本をご割愛下さった登日邦明君と、貴重な資料を賜った岡村八郎氏とに深く感謝の意を表し、併せて平素一方ならぬご高配を頂いている山西元氏に厚くお礼を申し上げる。

## 文 献

- 江崎悌三・白水隆 (1951), 日本の蝶, 北隆館  
橋本清美 (1941), ミカドアゲハの飼育生活史, 昆虫界  
9 (85): 127-141  
白水 隆 (1958), 日本産蝶類分布表, 北隆館  
——— (1965), 原色図鑑日本の蝶, 北隆館  
登日邦明 (1967), 淡路産蝶類仮目録 (1), 淡路昆虫同  
好会々誌 1 (1): 3-7